

編集後記

『上智経済論集』第59巻第1・2号合併号を「経済学部100周年記念特集号」としてお届けする。

本号は、昨年度刊行の第58巻第1・2号合併号「上智大学経済学部100周年記念号」と対をなす、100周年記念企画の第二弾である。本号では「経済学部100周年記念特集」として、2013年9月21日に行われた記念行事の概要を収録するとともに、1988年に執り行われた創設75周年行事から今日に至る、経済学部四半世紀の歩みを体験されてきた名誉教授・学部教員からの特別寄稿を収録している。本号の目的は、教育や人材育成という側面から、経済学部の歩みを振り返り、新しい100年に向けての方向性を検討することであり、この点が研究論文集である前号とコントラストをなしている。

10号館講堂で開催された記念行事は、プテンカラム教授による聖書朗読・平和の祈りによって開幕し、記念式典の後、「日本社会の再活性化と大学の役割」を統一テーマとする記念講演・記念シンポジウムが開催された。講演・シンポジウムにご登壇いただいた皆様に、この場を借りて、改めてお礼を申し上げたい。

記念講演・記念シンポジウムでは様々な論点が提起されたものの、日本社会を活力あるものにしていくためには有為の人材が不可欠であり、人材育成という点で大学に寄せられる期待は大きいとの基本認識は、登壇者すべてに、また会場全体としても共有されていたものと思われる。本号の特集コンテンツが、当日の会場の雰囲気を変え、日本社会の再活性化方策と大学の役割についての議論が盛り上がっていく契機となれば幸いである。

記念行事終了後には、ホテルニューオータニに会場を移し、祝賀会が開催された。祝賀会の開催に当たっても、記念行事同様に、多大なご支援を頂戴した、ソフィア会・ソフィア経済人倶楽部・経鷺会ははじめ、関係各位に改めてお礼を申し上げたい。

本号の編集作業に携わることで、経済学部の歩みを振り返る機会を得られた。そこで改めて強く感じたのは、経済学部の教育・人材育成はひとり教員のみが担ってきたわけではないことである。教員だけでは、経済学部の教育理念「広い視野と先見性を持ち、国際的な場で活躍するリーダーとなる人材を育成する」ことは難しい。

シュンペーターは「大学は建物ではない」と発言したと伝えられている。その響みに倣うとすれば、「教室だけが大学ではない」と言えるのではないだろうか。確かに、教員はカリキュラムを編成し、講義やゼミナールを担当している。しかし、学生諸君の成長機会には教室以外にも数多く存在する。学部独自の同窓会組織である経鷺会から研究奨励などのサポートが得られる経済学部学生は、この点で、非常に恵まれている。

100周年を迎え、次の100年に向けて新たな門出を祝う一年は、当然であるがゆえについ忘れがちな事実、経済学部100年の歴史は多くの方々に支えていただいた歴史でもあるということを改めて実感する機会を提供してくれた一年でもあった。今後とも、経済学部の研究・教育活動に対する一層のご支援を賜れるよう、関係各位にお願い申し上げたい。

2014年2月26日
編集委員長 網倉久永